

26年見通し 大垣西濃信金が調査

「景気変わらない」7割

大垣西濃信用金庫は、西濃地域を中心とする取引先事業所を対象にした2026年の景気見通しなどに関する特別調査の結果を発表した。日本の景気見通しは「あまり変わらない」との回答が72・9%を占めた。自社の売上高、利益の予測も尋ね、25年と同程度との回答が7割前後だった。

26年の日本景気の見通しで「良くなる」「やや良くなる」との回答は計15・6%で、「悪化する」「やや悪化する」の計11・4%を上回り、一定の期待感がうかがえた。26年の自社の売上高の予測は「あまり変わらない」が68・7%で最多。「増加」「やや増加」は計17%、「減少」「やや減少」は計14・3%だった。

26年の自社の利益の予測は「あまり変わらない」が最も多く、70・9%。「増加」「やや増加」は計15・4%、「減少」「やや減少」は計13・7%だった。

自社の業況が上向き転換点の時期は「見通しが立っていない」(55・5%)が最も多く、「1年後」(17・5%)、「既に上向いている」(10・1%)、「2年後」(8・3%)が続く、比較的短期間で上向くとの見込みが一部で見られた。

26年の事業環境の経営リスク(複数回答可)は「原材料・仕入価格・エネルギー価格の高騰」(51・2%)、26年に特に力を入れること

(同)は「販路の拡大」(51・9%)が最多だった。調査は西濃地域と瑞穂市、本巣市、北方町などにある取引先に行い577社が回答した。(小森直人)

無断複製・転載を禁じます